

私たちにとっての勉強の意味、学校という場

「高校生未来プロジェクト」のワークショップに参加した3人の高校生が、参加した理由、ワークショップを通して気が付いたことやその後の自身の変化を語った。彼らの言葉から、高校生が学びに向かう鍵を探りたい。

参加者

岩手県・私立盛岡白百合学園高校 3年生(当時)

小池悠菜 こいけ・ゆうな



好きな教科は英語。放送部と、奉仕活動を行う社会生活動委員会に所属。趣味は音楽鑑賞。「負けず嫌いな性格だと思います」

栃木県・私立作新学院高校 1年生(当時)

山野上一輝 やまのうえ・かずき



好きな教科は英語。学校では風紀衛生委員を務めている。趣味は読書。「性格を一言で言えば、『恥ずかしがり屋』だと思います」

京都府立園部高校 1年生(当時)

八木杏奈 やぎ・あんな



好きな教科は倫理、美術、国語。射撃部と華道部に所属。趣味は友人との会話と読書。「性格は天真爛漫で、少し変わった人です」

1 何を期待して参加したのか

山野上 僕は、学校の先生から「こんなものがあるから参加してはどう？」と、「高校生未来プロジェクト（以下、PJ）」のチラシを渡されました。ちょうど成績が下がって、勉強のやる気も出ず、これからどのように勉強していけばよいかとモヤモヤした気持ちで悩んでいた時期だったので、チラシにあった『『学び』の意味』という言葉に興味を持ちました。他の人の話を聞いてやる気が出たらいいな……という気持ちでした。

八木 高校に入っているいろいろな人と出会うようになりましたが、周りの人は勉強や部活動で頑張っているの

に、私は納得のいく結果を出すことが出来なくて……高校生になったら変わりたいと思っていたのに、それが出来ていなくて悔しかったんです。勉強していても、なぜ勉強するのか、自分は何をしたのかよく分からなくて。そんな時、学校の進路指導室の近くの廊下にポスターが貼られていて、PJのことを知りました。PJで他の人と話したら、そういったことも少しは分かるのかなと思いました。また、このPJ参加を

きっかけにして、もっと積極的にやりたいとも考えました。

小池 私は2012年3月に実施された第1回PJに続き、2回連続で参加しました。前回は、白熱したディスカッションに最初は圧倒されましたが、とても面白く感じて心に残りました。でも、もっと自分の意見を言いたかったという思いもあり、今回も応募しました。当時、志望学部・学科は決めていたのですが、本当に自分はこの道でいいのかを考えていた時期でもあったので、そのモヤモヤした気持ちを今回のPJで解消できればいいなと思いました。

「学ぶ意味って何だろう？」

「自分の進路はこれでいいの？」

2 PJに参加して何を感じたのか

八木 最初はPJを楽しみにしていたのですが、次第に「議論なんて私に出来るのだろうか」と不安になってきて、PJ直前は緊張で寝られず、食べられずの状態でした。でも、参加してみると、皆が真剣に自分の目を見て話を聴き、うなずいてくれて。こんなことは初めての経験だったので、とてもうれしかったんです。自分とは違う世界の人と会えたことも楽しくて、初めて会った人ともすごい勢いで議論できました。人の意見を聞いた後に「私はこう思う」と違う意見を言ってもいいと分かったことも、うれしかったです。

小池 すてきな仲間に出会え、一生の財産になったと思います。デイスカッションはもちろん、宿泊施設でも何時間もいろいろと語り合えたことが本当に楽しかったです。第1回のPJから、今でもSNS（*1）で交流している仲間もいるんです。

山野上 僕は、このPJに参加するまでは、自分の考えを言葉に出すのが苦手でした。どうしても相手に遠慮してしまうんです。でも、PJでは思いをそのまま話せました。PJの後、気持ちを楽に、素直に人と話せるようになった気がします。あまり良いイメージを持っていなかった「勉強」をテーマに話し合えたのも新鮮でした。

たが本当に楽しかったです。第1回のPJから、今でもSNS（*1）で交流している仲間もいるんです。



八木 学校では進路や勉強の話を避ける人も多いです。話してくれる子は話してくれるけど、「そういうことを考えると頭が痛くなるから止めよう」と言われたこともあります。触れてはいけない、暗黙の了解みたいなものがあるような気がします。でもPJでは、皆がその話をしようとしていました。そして、私の意見を聴こうという姿勢で、受け止めてもらえると、という信頼感もありました。

山野上 参加した人たちの意識が高かったからだとおもいます。話す姿を見ればそれが分かりました。この人たちなら思っていることを話しても受け入れてくれる、皆の熱意をもらうことで、自分が変われるのではないかと思えました。そして、話し合ううちに、僕は勉強が嫌いなのではなくて、ただ勉強を避けてきただけで、勉強の楽しさや奥深さに気付いていなかったのだと思ったのです。

小池 このPJには、目標を持ち、頑張りたいと思っている人ばかりが集まっていたから、学校では話すが恥ずかしいことも、素直に話せたのだと思います。また、ファシリテーターの方が「今日の話題には正解はないんだよ」と最初に言ってくれたので、自信がない意見もどんどん言うことが出来ました。

3 初めて会った人となぜ議論できたのか

「皆が自分の目を見て話を聴いてくれる」

「勉強について話し合えたのが新鮮」

「相手の熱意をもらって自分が変わる気がした」

「正解がない話題だから、自信がなくても意見を言えた」

4 何でも話せる雰囲気は学校にあるか

小池 もちろん学校にも信頼できる友だちはいます。でも、大人数になると、自分の意見を言いにくい雰囲気になるんです。少人数の中なら話しやすいけれど、それでも今回のPJのようなディスカッションにはなかなかありません。それに私の学校は、大学進学を目指している人ばかりだったので、勉強の意味など話す必要はないと皆思っていたのかもかもしれません。

八木 学校の友だちを大切にしたいから、話にくい部分には踏み込まない……そんな気持ちもあります。勉強の意味や自分の進路などについて話せる人もいるけど、大人数で話すという感じではありません。

山野上 勉強の意味や進路などについて話が出る人は、学校にはなかなかいません。もしかしたら、これまで自分があまり積極的に話し掛け

なかったことが原因かもしれません……。PJで知り合った人と、今も時々メールでやりとりをするんですが、その人とは勉強の意味や進路について話が出るようになる気がしています。



「勉強の意味は、話す必要がない」

「友だちを大切にしたいから踏み込まない」

5 議論してみても分かったこと

八木 私は、今まで自分の思いをためていたんだなあと思いました。自分の思いを否定されることを怖がっていたのだと、PJで自由に話したことでも気が付きました。

山野上 僕も、PJを通して、自分の中にいろんなものがたまっていたんだと気が付きました。生きることの意味などを1人で考えることがあっても、それをうまく人に話すことが出来なくて……。きっと学校の皆も、いろいろなことを考えているはずだと思うのですが。

小池 学校の友だちも、PJに参加すれば、普段ためていることを話し出すはずだと思います。すぐには意見が言えなくても、いろいろな人の考えを聞いていううちに、深まるものもあると思うのです。

山野上 勉強に対する考え方も変わりました。PJで人と考えを伝え合

うことはとても面白かったです。が、そのためには知識が必要だと痛感しました。勉強とは、人から情報を得て自分のものにしていくことだと思います。でも、今までの自分は、人から情報を得ても、頭の中で抜けてしまうことが多かったのです。人から得た情報を自分のものに変えていくプロセスを学ぶことも、大切な勉強だと思います。高校時代だけではなく社会に出てからも必要な、人とかかわるための勉強だと考えると、それまでマイナスイメージだった勉強がプラスイメージに変わったのです。これまでもモヤモヤと悩んでいたからこそ、PJの2日間をきっかけに気付けたことも多かったと思います。僕の考えも変わったのだから、学校の友だちがPJに参加したら、きっといろいろな考えが変わると思います。

「自分の中にいろんなものがたまっていた」

「人と考えを伝え合うために勉強したい」

6

PJ後の自分自身の変化

山野上 今のままではだめだと思いましたが。PJで、志の高い人はもとも能力が高いたくではなく、努力によって今の姿があることが分かったのです。自分もそうなりたいたく、勉強を始めました。でも最近、以前の自分に戻ってしまつて……だから今は、あの時の気持ちを思い出して、自分を立て直したいです。

八木 PJからの帰りの新幹線の中で、いろいろな気持ちをごちゃごちゃになって、でもこんなうれしい経験は初めてで、なぜか泣いてしまったのです。そして、今回の経験をただの思い出にすくなくったので、地元のワークショップなどに積極的に参加し始めました。学校でもいろいろな人と話したいと思うようになり、先日、1度も話をしたこと

がなかったクラスメイトに話し掛けたんです。いろいろなことを知っている人だと分かり、その人ともっと話をするために、私も知識を増やしたいと思うようになりました。

小池 前回のPJで私は、東日本大震災の被災地である地元のことを全然知らないことに気が付きました。そこで、被災地でのワークショップなど、社会の現状を学ぶ場に参加するようにになりました。今回のPJでは、荻谷剛彦先生から「複数の分野の知識を蓄えて、新しい知識をつくらないと、社会の問題を解決できない」という話を聞き、入試科目ではない教科もちゃんと勉強しなければいけないと後悔しました。だから今、大学で幅広く学べるように、いろいろな本を読んでいます。

7

学校の授業に対する姿勢

八木 PJに参加して、授業の受け方が変わりました。教壇に立っている先生も、私と同じ人間なのだといふごく当たり前のことをすごく意識するようになったんです。変な言い方ですが、私にはそれまで、授業は先生が一方的に話しているものだという固定観念がありました。でも、

先生も私と同じように意志や感情があり、私たちが授業をちゃんと聞かないと悲しいだろうと思うようになりました。PJで話を聞いてもらったことが私はうれしかったから、私も他の人に対してそうしていこうと思えました。

小池 どんな授業でも「これはなぜなんだろう？」と自分から疑問を持つことを心掛けるようになりました。授業を聞いて、ノートに書き写

すだけで終わりではもったいない、何か自分の興味のあることを見つけて調べてみようと思う気持ちが生まれたんです。

山野上 僕は、これまでは教室の中に先生と自分しかいないような感じだったんです。でも、PJでいろいろな人と話しているうちに、周りの人とながつているから今の自分があると思うようになりました。そして、授業中も、周りの人に興味が向くようになったんです。勉強に真剣に取り組めないクラスメイトを見ると、その姿が、PJに参加する前の自分と重なるのです。そうした人たちに対して、僕は何かをしたい、話し掛けてみたいと思うようになりました。まだ、なかなか実行できないのですが……。

「学校でも、いろいろな人と話したい」

「入試科目ではない教科も勉強すべき」

「先生も、感情を持った人間だと気が付いた」

「今度は自分が他の人に何かをしたい」

8 学校で、語り合うことが出来るのか

小池 学校でも勉強の意味や進路について深く話し合える場所がもつとあったらいいと思います。でも、普段の友だちとの会話で、今回のPJのように白熱した議論をするというのは、あまりイメージが浮かびません。だから、違う学年の生徒を交えた少人数のグループなど、話がしやすい場所をつくってもらえればいいなと思います。そして、それを体育祭や合唱コンクールのように行事化するば、学校の中に日常的に深く話をする雰囲気が出てきて、皆自然と話せるようになると思います。ただ、PJのように、全国から集まった、会ったことがない人たちとも話したいです。両方の場があったらいいですね。

八木 中学生の時にディベートをしたのですが、よく話す人に頼ってしまい、自分はあまり話せませんでした。

「少人数のグループなど話しやすい環境が必要」

「自分が変わることで、周囲を変えたい」

た。だから、出来るだけ小さなグループで討論するのいいと思います。それから、やはり自分自身が変わろうとしないとだめなのかなと思います。私もそうですけど、人の姿は皆よく見ているものです。自分が変われば、周りの人はきつとそれに気が付き、少しずつ変化が広がっていくと思います。そんな良い影響を与えられる人になりたいと思います。

山野上 僕も、最初に自分が変わることが必要だと思っています。勉強のやる気が起きない人に、自分からいろいろと話を投げ掛けてみたいですね。昔の自分の状態を考えながら、なぜその人がそういう状態なのかと一緒に考えるうちに、そうした人たちも変わると思うんです。そういった関係が広がれば、クラス、学年、学校全体が変わっていくのではないかと思います。

9 今、語り合いたいテーマ

八木 高校生だから、やっぱり「勉強ってどういう意味があるのか」について話してみたいです。私の周りにも勉強の意味についてすごく悩んでいる友だちがいるし、反対に勉強についてしっかりと目的意識を持っている人もいますので、悩んでいる人と目的意識を持っている人が話すことで、悩んでいる人に変化が生まれ、自分なりの目的意識を見付けられるような気がします。私自身、勉



強の意味は最初はよく分からなかったけど、PJでいろいろな人と語り合い、それから数か月、更に考える中で、「勉強は経験の1つ」なのかなと思うようになりました。勉強するという行動そのもの、頑張った経験によって、のちのち「あの時頑張ったから今も頑張ろう」と思えるような気がするんです。もちろん、いろいろな知識を身に付けることで、「これはこういうことじゃないのかな」と周囲の人たちと深くかわれるようになることもあると思います。ただ、今の私は「何のために勉強するか」は、のちのち分かることではないのではないかと、そしていつか役に立つだろうと思っています。今の私の考えについて、他の人はどう思うのか、クラスの人たちとも話してみたいです。

山野上 これまでの自分は、自分のしたいことをやっていくというよりは、周りの人に流されて勉強していたように思います。だから実際、このままで自分は本当に幸せになれる

のか考えたこともあり。 「何故人の幸せなのか」ということをもつと考えてみたいし、人と話してみたいです。お金があることが一番大切だという人もいるかもしれませんが、僕はお金よりも精神的なものが重要なんじゃないかと思っています。他の人たちはどう考えているのか、話してみたいです。

小池 私は被災地である岩手県出身なので、震災からの復興について、全国の皆と話し合いたいです。私の

「勉強の意味、人の幸せについて語り合いたい」

「震災からの復興について

目を背けることなく、話を聞きたい」

改めて

今思う、

勉強の意味とは

小池

こうなりたいたいという将来像に自分が近付くための一歩、素材の1つなのだと思います。だから、目標や夢がないまま長い道を走ると挫折するかもしれません。大きな目標があれば、いろいろなことに興味を持って勉強を続けてみようと思えるのではないのでしょうか。

山野上

生き方というか、問題の対処の仕方を学ぶためじゃないかなと今は思います。社会に出て、会社で仕事のやり方を教わる時も同じで、知識や情報をどう生かしていくか、そのプロセスを学ぶのが勉強だと思います。

八木

頑張ったらその分、将来の自信につながっていく、自分自身を形づくる経験の1つではないかなと思います。嫌いな教科を受け入れることが出来れば、いろいろな人も受け入れられるようになる気がします。

10 社会とどうかわわっていききたいか

小池

私は、震災からの復興にもっとかわりたい、日本の社会をもっとより良く変えたいと思うようになりました。PJで出会った人の中には「日本を変えたい」とはっきりと口にする人もたくさんいました。私も、大学で震災ボランティアのサークルを立ち上げ、PJのような対話の場をつくったり、イベントを開催したりしたいと考えています。

山野上

社会をもっと良くしたいと心の中では思っているけど、その思いを誰にも話せない人は多いのではないのでしょうか。自分もそうだと思います。

います。PJでは、そうした夢を話す人がいましたが、僕はまだまだ全てをさらけ出せなかつたです。まずは第一歩として、何か行動したいと思っています。

八木

PJに参加する前の私なら、「社会を変えるなんて私には……」とごまかしたかもしれません。でも今は、やってもいけないのに自分には無理だと決めつけたくないです。やってみて無理だつたら無理だと言えればいいかな、と。そして、実際に自分に何が出来なのか、もつともつと考えたいと思います。